学校番号	111

令和２年度　公民科

教科	公民科	科目	政治経済	単位数	２単位	年次	2/3 年次
使用教科書	最新政治・経済　新訂版（実教出版）						
副教材等	標準高等地図（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・2 年生は 1 年生で履修した現代社会（3 年生は中学校で学習した「公民」）の内容を踏まえ、現代の政治・経済各分野の理解を深める。
・実際の社会の動きに即した内容を取り入れ、18 歳成人定着を見据えた政治的教養を身に付けるために、日常生活と政治・経済の結びつきを意識させるよう取り組みを工夫する。

2　学習の到達目標

・広い視野に立って、民主主義の本質の理解を深めさせ、政治・経済と社会生活のつながりについて客観的な視点での理解を深めさせる。
・幅広い視点で現代の社会的な仕組みとその問題について、主体的に考察し公正に判断する能力を身につける。
・人間としての在り方生き方について考察する力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・現代の政治・経済・国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現について客観的に考えようとする。	・現代の政治・経済・国際関係にかかわる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決について広い視野で考察するとともに、社会の変化や様々な立場・考え方を踏まえ公正に判断する。	・現代の政治・経済・国際関係にかかわる事例等を様々なメディアを通して主体的に選択し活用する。考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治・経済・国際関係に関する基本的な事柄や、本質・特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付ける。
評価方法	ノート提出 ワークシート提出	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、各学期の評定をもとに、1 年間の生徒の活動を評価に入れる。それらを総合して学年末に５段階の評定にて評価する。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期(中間考査まで)	現代の政治	第1章 現代国家と民主政治 第２章 日本国憲法と基本的人権	○ ○	○ ○		○ ○	a:民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 b:日本国憲法の成立過程を理解しつつ、日本国憲法のもつ意味について考察する。また、三大原理について理解する。 大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察し、それぞれの憲法の本質について正確に把握する。 c:必要な諸資料を収集、分析し、な情報を選択して読み取り、図表などにまとめる。 d:基本的人権、新しい人権について、意欲的に理解を深め、その本質を把握する。 人権を主張する際「公共の福祉」が絡むことを理解する。	ワークシート 発問の評価 ノート提出 定期考査
1学期(期末考査まで)	現代の政治	第３章 日本の政治制度と政治参加	○	○	○		a:民主主義のあり方について理解するとともに，現代政治の特質について把握する。 国会・内閣・裁判所などの政治機構にふれ、主権者として政治に対する関心を深める。 b:国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割について、意欲的に理解し、立法・行政・司法のあり方について、問題点も含めて幅広い視点から考察する。 c:特徴的な事例を書籍やインターネットを利用して調べ、考察すべき問題点をまとめる。 d:法律の制定や裁判のしくみ、内閣の役割や仕組みについて、正しく把握している。	

2学期(中間考査まで)	現代の政治 ～ 現代の経済	第3章 日本の政治制度と政治参加	○	○		○	a:望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。 b:メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割を認識する。 c:選挙結果の分析を新聞・テレビ・インターネット・模擬投票などを活用し調査する。 d：参政権の保障が国民主権へ繋がることを理解している。	ワークシート 発問の評価 ノート提出 定期考査
		第4章 現代の国際政治	○	○	○		a:冷戦後の国際社会の動向について理解する。 b:国際連合の役割と問題点について考察する。 c:国際平和のために、日本が貢献できることについて調査し、まとめる。 d：日本の国際的立場や貢献可能な事がらなどを考察し、理解を深めた。	
		第5章 日本の平和主義と国際平和	○	○	○		a:日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題を考える。 b:自衛隊・憲法改正問題など昨今の憲法に関する論点について感心を深める。 c:憲法 9 条の解釈の変遷について調べる。 d:国際平和の変遷と現状、日本の平和主義との関係性が理解できた。	
		第2編 第1章 現代の経済社会	○	○		○	a:資本主義の基本的概念や理論を学習することで、現代経済の特質について考える。 b:家計・企業・政府の関わりから、現代の経済の構成を理解する。 c:独占，寡占市場での消費者への影響について調査する。 d:現代の経済社会の概要が理解できた。	

2学期(期末考査まで)	現代の経済	第1章 現代の経済社会	○ ○	○ ○	○	○	a:財政の基本的なしくみや役割を、日本の財政の現状より理解し、経済活動のあり方を考察する。 b:金融機関をはじめ、日本経済が抱える問題について認識する。 c:経済成長率の推移、景気変動などを経済政策に関する資料などを利用して、日本経済の動向を調査する。 d:経済成長とともに人々の生活が豊かになる一方、公害などの社会問題が発生したことを理解できた。	ワークシート 発問の評価 ノート提出 定期考査
		第2章 現代の日本経済と 福祉の向上	○		○	○	a:大企業と中小企業の違いや、中小企業が果たしている役割について理解する。 b:深刻化している地球的規模の環境問題を直視し、どのように乗りこえるか考察する。 c:消費者問題の現状や消費者運動、さまざまな法制度を新聞やネットなどの資料を利用して調査する。 d:労働基本権・労働三法を正しく把握し、様々な視点から見た近年の労働問題について理解し、問題意識をもつことができた。	

3学期(学年末考査まで)	現代の経済 ～ 現代社会の諸課題	第3章 現代の国際経済	○	○		○	a:国際経済に関する基本的な概念を理解し、日本が果たすべき役割について考察する。 b:人・物・金の国際的移動が、世界経済に与える影響について関心を高め、円高・円安が、自分の生活にどのように影響するかについて関心をもつ。円とドルの為替相場について，日本企業の海外での現地生産を例に考察する。 c:経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について調査する。 d:貿易の自由化が経済に与える影響の大きさについて理解し、国際的な視点からの相互理解が得られている。	ワークシート 発問の評価 レポート ノート提出 定期考査
		第3篇 現代社会の諸課題	○	○	○		a:現代社会の諸課題について、生活関連の部面に関心を高め、意欲的に理解を深める態度を身につける。 b:これまでの学習の成果の上に立って、人口・食糧問題を念頭におき課題を追究する。 c:現代社会の諸課題について、テーマを決めてレポートを書き、討論をおこなう。 d:社会問題を多角的・多面的に追究し、望ましい解決方法を考察することができた。	

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。